

子育て支援の実施

① 保護者の子育て支援

- ①子どもとその保護者が、自由に交流できる場を提供し、交流を促進するように配慮すること。
- ②子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるような子育て支援活動を実施し、保護者が広く地域の人々との関わりをもてるよう支援すること。
- ③児童虐待の予防に心掛け、保護者の子育てへの不安や課題には関係機関と協力して継続的に支援するとともに、必要に応じ相談機関等につなぐ役割を果たすこと。
- ④児童館を切れ目のない地域の子育て支援の拠点として捉え、妊産婦の利用など広い保護者の子育て支援に努めること。

② 乳幼児支援

- ①乳幼児は保護者とともに利用する。児童館は、保護者と協力して乳幼児を対象とした活動を実施し、参加者同士で交流できる場を設け、子育ての交流を促進すること。
- ②子育て支援活動の実施に当たっては、子どもの発達課題や年齢等を十分に考慮して行うこと。また、計画的・定期的を実施することにより、子どもと保護者との関わりを促すこと。さらに、参加者が役割分担をするなどしながら主体的に運営できるように支援すること。

③ 乳幼児と中・高校生世代等との触れ合い体験の取組

- ①子育てにおける乳幼児と保護者の体験を広げ、子どもへの愛情を再認識する機会となるとともに、中・高生世代等の子どもを乳幼児の成長した姿と重ね合わせる機会となるよう取り組むこと。
- ②中・高生世代をはじめ、小学生も成長段階に応じて子どもを生み育てることの意義を理解し、子どもや家庭の大切さを理解することが期待できるため、乳幼児と触れ合う機会を広げるための取組を推進すること。
- ③実施に当たっては、乳幼児の権利と保護者の意向を尊重し、学校・家庭や母親クラブ等との連携を図りつつ行うこと。

④ 地域の子育て支援

- ①地域の子育て支援ニーズを把握し、包括的な相談窓口としての役割を果たすように努めること。
- ②子育て支援ニーズの把握や相談対応に当たっては、保育所、学校等と連携を密にしながらい行うこと。
- ③地域住民やNPO、関係機関と連携を図り、協力して活動するなど子育てに関するネットワークを築き、子育てしやすい環境づくりに努めること。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携

中高生と赤ちゃんとの交流事業

■ 児童館の概要

名 称	京都市梅津北児童館
設 置 主 体	京都市
運 営 主 体	公益社団法人京都市児童館学童連盟
開 設 年 月	平成22（2010）年7月
開 館 時 間	月～土10：00-18：30 （学童クラブ事業は土曜・学校休業期間中は8：00-18：30） ※小学校長期休業中 8:00～18:30 休館日：日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）
所 在 地	京都府京都市右京区梅津開キ町18
ホームページ等	http://www.kyo-yancha.ne.jp/umekita/
児 童 館 種 別	小型児童館
占 有 面 積	建物313.62㎡
職 員 数	常勤5人
年間利用者数	約27,893人
自治体の人口	京都市/1,462,980㎡（令和2（2020）年3月1日現在） （内、梅津地区/約11,000人）
主な利用児童の 学 校 数	小学校1校、中学校1校、高校は多様



活動の前提にあるもの

梅津北児童館では、子どもの心と体を育み、育ち合える仲間づくりをするために、出会いと体験、人とのつながりを大切にしています。「中高生と赤ちゃんとの交流事業」においては、赤ちゃんとその母親、中学生が気軽に毎日でも足を運べる児童館を会場とすることで、お互いが日常的につながりを持つことができるようになります。これにより、事業以外でも頻繁に交流の機会を生むことが可能です。親子にとっても、中学生との交流を楽しむことで、児童館が安心できる居場所となります。

活動の概要

- 「中高生と赤ちゃんとの交流事業」はプログラムの内容が各児童館により異なります。中学校や高校に向いて実施する児童館もありますが、梅津北児童館では、活動を開始した平成25年度から一貫して児童館での開催としています。
- 事業のプログラムとしては全7回とし、第1回は性教育や赤ちゃんの成長についての講習、赤ちゃんの人形を使った抱っこの練習、専用のセットを用いた妊婦疑似体験などを行い、それ以降は実際の交流に加え、赤ちゃんのおもちゃ作りや離乳食作りなどを行います。第6回は赤ちゃんと母親と一緒に外出をしたり、中学生がサンタクロースに扮し赤ちゃんと母親にプレゼントを届けたり、年によって企画を変え、第7回は振り返りの会を行います。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携



活動のポイント

子育て支援の実施

児童館で開催する

児童館を会場とする場合、参加者は赤ちゃんとも母親との交流に興味のある子どもに限定されがちです。しかし、学校の授業のように時間内で完結させる必要がないため、プログラムとして設けた時間を過ぎても、お互いの時間が許す限り交流できるメリットがあります。また、児童館には日常的に赤ちゃんとも母親が利用していることから、プログラムがない日でも、児童館に訪れた中学生は自由に親子と交流することができます。さらに、当初は参加するつもりがなかった中学生も、児童館での交流の様子を見て興味を持ち、参加を希望するようになるなどの広がりも見られます。加えて、全7回という長期のプログラムとすることで、乳幼児の成長の早さを実感したり、子育ての苦労話を聞く中で、自らの親の苦労や愛情に想いを馳せる機会ともなります。

児童館の設備を生かす

プログラムの第3回では、赤ちゃんのおもちゃ作りをします。各プログラムはおよそ1時間としていますが、赤ちゃんにとって安全で、かつ楽しいおもちゃを作るため中学生自身でアイデアを練り製作するため、完成させるには時間が足りません。そこで、児童館の開館時間内ならいつでもおもちゃ作りに取り組めるようにしています。また、プログラムの第5回には、離乳食作りをします。作ったものは中学生自身が試食するほか、赤ちゃんの母親に食べてもらい、感想やアドバイスをいただきます。児童館という施設の特性を活用することで、多様かつ深い交流が可能になっています。

相互に良い機会となることを目指す

この事業は、中高生の成長に視点が置かれがちですが、赤ちゃんの母親にとっても良い機会とならなければ継続できません。プログラムの初回で中学生にきちんと講習を受けてもらうのは、母親が不安や負担を感じることをしないようにするためでもあります。また、おもちゃ作りや離乳食作りなどにおいても、その都度、母親の苦労や気持ちを伝えることで「子育て」の理解を促します。これにより、中学生が優しさや労わりの心を持って交流することができます。母親は、そんな中学生との素朴な会話を通して育児の苦労を認めてもらえた気持ちになれば、中学生の「赤ちゃん、かわいい」という素直な反応を見て、改めて自分の赤ちゃんをかわいいと感じる方もいます。

学校・地域と連携する

京都市では、児童館において放課後児童クラブ事業も実施する基本方針があります。そのため、市内の児童館は学校が長期休業に入ると利用者が増え、赤ちゃんとも母親が落ち着いて過ごすことが難しくなることがあります。しかし、梅津北小学校の敷地内にあるため、教室や体育館を借りることができ、利用者が目的ごとに分散するため、ゆったりと過ごすことができます。また、中学生が赤ちゃんとも母親と一緒に外出をしたり、自宅を訪問したりする際は、地域の児童館運営協力会の方々が交通の安全確保や訪問先の調整などにご協力くださっています。



実践する上での工夫点や注意点



参加者集めは口コミ重視

年度初めに、中学校の全校生徒に本事業のお便りを配布しています。しかし、そのお便りを見て集まるのは、多くがもともと児童館になじみのあった中学生10人未満です。今の時代、紙の案内を見て出かけてみようと思う中学生は少なく、やはり効果があるのは友達同士の口コミです。そこで、参加した中学生に毎回「お友達を連れてきてね」と声をかけています。その結果、最終的には20人近くの中学生に参加してもらうことができています。



参加のハードルを下げる

中学生は、部活や塾などで毎日が忙しい世代です。そこで、プログラムとして設けた7回全てに参加できなくても良いことにしており、それ以外の日に、いつでも児童館を訪れ、親子と交流できることを伝えています。また、交流に消極的な中学生や赤ちゃんの母親には、児童館で開催する夏祭りや焼き芋パーティなどの機会を捉え、気軽な交流を勧めています。すると「こんな雰囲気ならプログラムに参加してもいい」と思ってもらえることが多くあります。



講習を丁寧に

初回の講習は、性教育や赤ちゃんの成長などのレクチャーに長けている市内の病院に所属している保健師の方に依頼しています。スライドを使った説明や、お腹の中の赤ちゃんのサイズを表現するのに米粒を用いるなど、職員も勉強になっています。また、保健センターから赤ちゃんの人形や妊婦疑似体験セットを借り、男子を含めた中学生に身に付けてもらうことで、母親の苦勞を感じてもらえるようにしています。



外出のプログラムを入れる

毎年、プログラムの第6回には、児童館の外に出かけることにしています。昨年度は赤ちゃんと母親、中学生とでイチゴ狩りに行きました。赤ちゃんを連れてきた母親が外出する際の苦勞を知ったことで、その後、中学生は公共交通機関などで席を譲ったり、泣いている赤ちゃんに出会ったときに温かく見守ったりできるようになりました。今年度は、中学生がサンタクロースに扮して、赤ちゃんのいる家を訪ね、お菓子と手作りのおもちゃ、母親へのメッセージカードなどをプレゼントします。児童館以外で親子の様子を見ることも、中学生にとって意義のある機会になっています。



思い出に残る品を渡す

プログラムの最終回は、1年間の振り返りとして、事業を通して感じたことを中学生に発表してもらいます。そして最後に、職員から記念の冊子をプレゼントしています。そこには中学生が毎回、付箋などに書いた感想と写真が貼られています。1年間の交流を、大切な思い出として残してもらえたらと思っています。

遊びによる
子どもの育成

子どもの
居場所の提供

子どもが意見を
述べる場の提供

配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくり

ボランティア等の
育成と活動支援

放課後児童クラブの
実施と連携



活動を通して見られる子どもの変化

初めは、赤ちゃんと母親にどう接したら良いか分からない様子だった中学生が、時間や回数を経るごとに、自分から話しかけたり、笑顔を向けたりすることができるようになりました。また、本事業以外でも、児童館や町で顔見知りの赤ちゃんや母親に出会ったとき、自ら進んで関わろうとする姿が見られるようになりました。さらに、こうした交流を重ねることで、赤ちゃんや母親に対する疑問が自然に浮かび、母親に積極的に質問できるようになりました。そして自分たちも大切に育ててもらった存在なのだ気づき、自己肯定感や親に対する感謝の気持ちを持つことができるようになりました。こうした中学生の変化は、赤ちゃんの母親に対しても安心できる居場所づくりや、子育てしやすい地域作りの一助になっていると考えています。



「中高生と赤ちゃんとの交流事業」に参加した感想

※一部抜粋

妊婦さんは歩くだけでも大変。
町で見かけたら何かできることを
してあげたい (中学生)

中学生の意欲や思いを知ることができ、
中学生に対する見方が変わった (親)

中学生が母親の大変さに気づいてくれたこと
で、『自分はよく頑張っているんだ』と自分
自身を認め、自信を持つことができた (親)

母親の大変さの他にも、子育
ての楽しさやうれしさを知ること
ができてよかった (中学生)

夫も、子どものころにこうした事業に参加
していれば、もっと子育てに協力的だっ
たかもしれないと思った (親)

自分たちも、手間暇かけて離乳食を作っ
てもらっていたんだなと知った (中学生)

自分も大切に育ててもらったのだと気
づけたので感謝したい (中学生)

など



活動がもたらす多様な効果

赤ちゃんと母親や中学生は、日々児童館を利用しているため、出会うたびに交流が深まり、継続的な関わりができるようになります。また、本事業に参加した中学生の様子は、定期的に担任の先生に報告しています。すると先生方は「この子がこんな表情をするんですね」「この子もこうした交流に興味があったんですね」などと大変驚かれます。「学校の中だけでは知ることのできない子どもの一面を知ることができる」と喜ばれています。中学生自身も、中学校は点数で評価されることが多いため、常に「良い点」「良い評価」を受けたいと思っています。しかし、児童館ではそのような評価がありません。職員は、中学生が見せるちょっとした気遣いや優しい言葉を見逃さず、「優しいね」などと声をかけようとしています。すると、中学生は勉強以外でも自分が認めてもらえることがあると感じたり、自分でも気づかなかった優しい一面に気づいたりします。さらに、児童館の夏祭りや焼き芋パーティなどのイベントにも積極的に参加したり、運営の手伝いや年下の子の世話などを自ら行うようになります。



活動を通して得た「気づき」



子どもたちの豊かな感受性

参加した中学生の中には「どうして参加してくれたのだろう」と不思議に思うような子どももいますが、皆が一つ一つの体験を素直に受け止め、さまざまなことを感じ取る豊かな感受性に感心させられています。



中学生の「かわいい」は新鮮

普段、中学生と接する機会のない母親は、中学生が集まると何となく「怖い」と感じていることを知りました。しかし、本事業を通して実際に中学生と交流することで、そうした思い込みを解消する機会になったようです。また、職員や他の母親が口にする「赤ちゃん、かわいい」という言葉に比べ、中学生が「かわいい」と言って見せる反応は、母親にとって新鮮に響くものと気づきました。

遊びによる
子どもの育成

子どもの
居場所の提供

子どもが意見を
述べる場の提供

配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

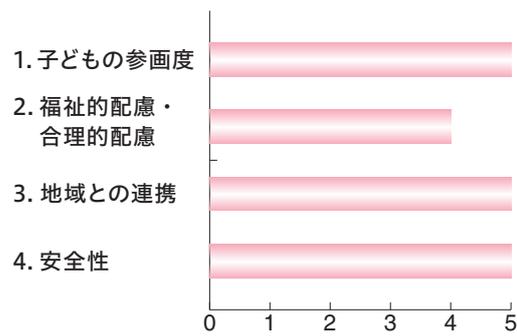
地域の健全育成の
環境づくり

ボランティア等の
育成と活動支援

放課後児童クラブの
実施と連携



職員による自己評価



1. 子どもの参画度…**5**

2. 福祉的配慮・合理的配慮…**4**

3. 地域との連携…**5**

児童館の外で行うプログラムや、児童館行事などでは地域との連携が欠かせないため、日頃から密に連絡を取り合っています。

4. 安全性…**5**

赤ちゃんの健康と安全が第一であることから、中学生の衛生管理やけがの予防対策は徹底しています。

